

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の創生なし』

## 会報

NO. 36

2016.1.29 発行

編集責任：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

### 第36回「ふるさと春日井学」研究フォーラム』

#### テーマ『ふるさと春日井の防災を考えるー自然災害から学ぶ（風水害編）ー』

平成26年1月10日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『ふるさと春日井の防災を考えるー自然災害から学ぶ（風水害編）ー』で開催しました。講師は加藤喜一郎氏（元春日井消防署職員）でした。講師の加藤喜一郎（上条町）氏は、昭和54（1979）年に春日井市の消防に入って長く春日井市の消防職を担当されてこられた。災害と防災についてプロの目で語っていただいた。資料はコマ129枚のスライドを用意され、災害現場の貴重な記録写真を投影された。『災害の記憶を記録に』と市民の防災教育に心血を注がれていることがよくわかった。

市民26名の参加がありました。



講演風景

#### ー発表要旨ー

災害の中で自然災害のうち「風水害編」としてまとめられ、さながら「防災学」の基本を学ぶ場となった。過去の事実から、未来に向けて市民自身が防災意識に役立てることを願っての講座となった。

I. 最初の画面に映ったのが左の航空写真で、平成3（1991）年の内津川決壊が林島であったもの。この時、加藤さんは消防署北出張所（田楽町）勤務だった。印象に残ったのは、ご婦

人が消火栓につかまっいて。県ヘリが救出したこと。また、鉄道が堤防の役割をはたして

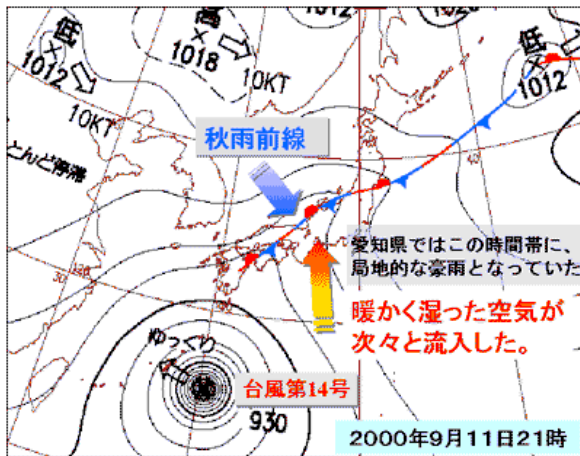


いたことだ。

内津川決壊

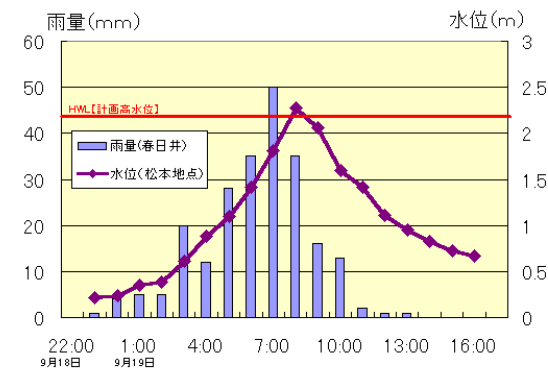
林島地区浸水状況

風水害には①前線豪雨②台風③ゲリラ豪雨④爆弾低気圧⑤ひょう・あられ、そしてダウン



バースト⑥竜巻などがある。近年、異常気象による集中豪雨が多発している。地震と違って、風水害は1時間後の予測ができるようになった。集中豪雨では時間雨量が大切だ。平成12(2000)年3月くらいから警報が出るようになった。24時間雨量のうち、ある日の0時から24時までの24時間雨量を「日雨量」といい、気象庁以外では、午前9時から翌日の9時までを「日雨量」という場合が多い。

気象情報で、大雨による災害が発生するおそれがあると「大雨注意報」や「大雨洪水注意報」が発表される。大雨による重大な浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると「大雨警報」「大雨洪水警報」が発表される。3年ほど前に庄内川が増水した時、堤防に上



がって見ている人がいた。本来は避難する態勢に入る時だ。

近年「記録的短時間大雨情報」が年に5回はどこかで出ている。年に一度ほどしかない大雨だ。1時間で約120ミリ以上の予測だが、春日井市内では88ミリが最高。「大雨特別警報」は警報の基準をはるかに超える未曾有ものだが、東海豪雨(2000.9.11-12、

東海集中豪雨)の時に使われた。

**II.秋雨前線と台風第14号による東海豪雨** 平成12(2000)年9月11日から12日にかけて、本州上に前線が停滞し、一方、大型で非常に強い勢力の台風第14号が日本の南にあってゆっくりした速度で沖縄方面に進んでいた**地上天気図**が上のもの。この前線に向って、台風周辺の非常に暖かく湿った空気が断続的に流入した。特に愛知県西部・三重県北部中心に局地的豪雨となり、名古屋市や東海市では日最大1時間降水量や日降水量が観測史上第1位を更新するなど猛烈な雨が降った。名古屋では11日2時から、東海市では同1時から降り始めた雨は日中弱まったが、宵のうちになり突然激しい雨に変わり、名古屋では18時6分から19時6分の1時間には97ミリの記録的な豪雨となり、東海市では114ミリの記録的豪雨となった。その後、12日明け方まで強い雨が続いた。2日間の総降水量は名古屋で567ミリ、東海市で589ミリと、共に年間降水量の3分の1を超えた。春日井では、時間雨量88ミリを高蔵寺出張所(高蔵寺町3丁目)で観測された。1時間に50~80ミリで「非常に激しい雨」と表現される。9月12日にこのレベルに達した時から加藤さんは3日間寝ずの対応をしたという。80ミリを超えると「猛烈な雨」で、高蔵寺での観測88ミリはこれに当る。100ミリでは「バケツをひっくり返し、たたきつけるような量」と表現する。

東海豪雨の被害は、名古屋市を始めとする尾張東部では総雨量500ミリを超える観測史上最大の大雨を記録した。名古屋西部での庄内川水系新川などで長さ100mにわたる破堤があり、各地で**河川の越流**があり、愛知県を中心に6万棟を超える浸水被害が発生した。春日井市は**内水被害**が目立った。内水被害は排水できず、道路が冠水する被害である。道路と側溝の区別ができない状態になるもの。こういう場合は、道路の中央を歩いてほしい。ひざ上になったら、高台に避難してほしい。桜佐や熊野は水に浸かってしまった。遊水池があっても役にたたなかった。9月11日の春日井市の被害を時系列でみると次のようだった。

**III.春日井市内の被害状況**

床上浸水 622棟  
 床下浸水 727棟  
 農地被害 稲の倒伏 60a  
 土砂流入農地 田 132a  
                   畑 65a  
 ため池 堤体決壊 2か所  
           土砂流入 3か所  
 用水路 堤体破損 1か所  
           土砂流入 1か所  
           (八田川)  
 公共施設 広域で被害  
 (河川敷グラウンド、高蔵寺  
 駅の市民コーナー冠水など)

11日	5時29分	大雨洪水警報、雷波浪注意報
	19時	愛知県知事へ自衛隊派遣要請依頼
	19時15分	避難勧告(1,703世帯) 味美・花長 1,400世帯に避難勧告発令
	21時35分	愛知県から自衛隊正式派遣要請
	22時25分	庄内川洪水警報発表、水位 5.28m
12日	3時	追進 153世帯、御幸 120世帯に
	3時30分	南花長 390世帯に避難勧告発令
	18時50分	洪水警報、大雨・雷、波浪注意報発表 ※県下被災市町災害救助法適用発表= <b>激甚災害</b>
22日		災害救助法適用申請
29日		災害対策本部解散

河川の氾濫は庄内川が満杯でのもの。法面はしっかりしているが、越水して外側が崩れる形で起きた。8千から1万の土嚢を用意したがあっという間になくなった。八田川の御幸町付近での冠水、同道路冠水、内水被害の発生時の庄内川の状況、八田川東漸時端の状況、八田川左岸の堤防崩壊、上条町8丁目の低所氾濫水害、上条用水支線氾濫、上条用水オーバーフロー、遊水機能を失った水田の写真などが投影された。被害状況の写真は極めて少ないことがわかった。丘陵地では高座町付近の斜面の土砂崩れがあった。「災害へ備え」「避難時の注意」「洪水・浸水発生時注意事項」「地域のつながり」など広範な内容であったが省略する。「記録を後世に残す」ことも訴えられた。

(記録：塚田忠雄)

## OPINION

### 『ふるさと春日井「まちづくり」の風景』

平成27年12月春日井市第5回市議会定例会において山田哲也市会議員(本会会員)による一般質問がありました。質問内容は『「書のまち春日井」ブランドの推進について問う』というものです。(紙面の都合上質問項目のみ掲載しました。)

#### 【一回目Q】

議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、「書のまち春日井」ブランドの推進について質問をさせていただきます。春日井市は、平安時代の三跡の一人、小野道風が生まれたということで「書のまち春日井」を呼称し、キャッチフレーズとして書道文化の振興に力を入れてみえます。私も小学生時代には毎年、県下児童・生徒席上揮毫大会に参加した思い出もあり、書のまち春日井への思い入れはひとかたならぬものがあります。この揮毫大会の歴史を確認したところ、1936年より小野道風公ゆかりの地として、書道教育の進展を願い始まり、今年で80回目、80年の歴史があるとのこと。空襲警報の中でも伊勢湾台風の年でも現在まで絶えることなく続いている書の活動です。太平洋戦争中は、存続を危ぶむ声もありましたが、一度絶えたら無くなってしまおうとの思いで、引率などの職員は必死の覚悟で戦中も開催を続けたそうです。また、1949年から続く全国規模の書の公募展「道風展」も毎年開催されています。

このように小野道風の遺徳と書の伝統は、教育関係者や地域の人々の情熱と努力で守られてきたものです。また、現在では書写教育は市内の多くの小学校でも行われていると伺っており、小野道風にゆかりの書の風景は教育現場で脈々と引き継がれ、春日井市民の書への愛着も深いものが感じられます。今回の取り上げたテーマである「書のまち春日井」ブランドの推進については、言い換えるなら、春日井にある文化歴史資産を現代の資産とし、その活用によって地域を活性化して行くというものであります。当市のかすがい市民文化振興プラン(改訂版)を見ますと、施策、文化の力でまちを元気にするという内容がありますが、この中で「書を始めとする様々な文化資源を活用し、観光や産業の分野との連携を図ります。」や、同じく文化資源を生かし地域経済と文化活動の活性化を図るという記載があります。ここでは商工会議所、中部大学、商店街と市や財団との連携の強化も記載されています。

私は本市としても、春日井を活性化する手段として、各分野の方々と連携し、どんどん「書のまち春日井」ブランドの推進を行い、まちづくりを進めるべきだと感じています。

そこで一つ目の質問をさせていただきます。

「書のまち春日井」ブランドの推進について、本市の現状の取り組みについてご説明いただきたいと存じます。

以上で壇上からの質問を終わります。

【二回目Q】

現状のご説明、ありがとうございました。継続的に、また、新たに様々な取り組みをされていることが確認できました。それでは2回目の質問に入ります。春日井市民文化振興プランの中にはマスコットキャラクターの活用の記載があり、その中からマスコットキャラクターの道風君が生まれたのだと認識しています。あちこちのイベントに道風君が参加している姿を拝見して、イベントの盛り上げに貢献していると思いますが、その他、この道風君の活用事例がありましたら、ご紹介願います。

【三回目Q】

ありがとうございました。今ご説明いただいたのは、まさしくこれからの時代を担う「書のまち春日井」ブランドの推進による春日井の活性化につながる施策の一つだと思います。これからも現在行われている活動は今後もブラッシュアップして進めていただければと思います。それでは3回目に入ります。ここで、私からは長野県佐久市望月町で行われている書を用いたまちお越し施策や今後の春日井市の「書のまち春日井」ブランドの推進による春日井の活性化策の一例をご紹介します。今後の参考事例にいただければと思います。春日井は小野道風という歴史的存在をもつ環境と全市的に書道文化の盛んな土地柄で「書のまち春日井」を掲げていますが、佐久市望月町は、現代書道の父と言われた比田井天来という著名な書家という歴史的存在をもって「書の里」としての環境作りを行っています。この地では、「天来自然公園」が造られています。天来生家の裏山に、天来とその門流たちの書を刻んだ石碑9本が建立されています。今後もこの石碑は増やされて行く予定だと聞いています。望月商店街には、天来の流れをくむ現代に活躍する書家が揮毫した看板80枚余がお店ごとに飾られ、観光客でにぎわいを見せています。また、日本で最初の書道博物館「天来記念館」も、毎年企画展を開催しています。このように対比して見てみると、春日井と佐久市望月町は、書を通じてのコンセプトが同じ町です。下街道と中仙道もそれぞれ近くにあり、歴史的遺産も似通った土地柄です。佐久市望月町の「書の里」が賑わいを見せているのは、産業・行政・民間協働の取り組み、知恵を出し合う努力、そして各流派を超えた書家の人たちの「まちづくり」を意識した協力があって、まちづくりに成功している例だと思います。春日井市も「書のまち春日井」ブランドを進めたまちづくりを行うには、佐久市望月町のやり方が一つの参考になるかと思います。

続いて、「書のまち春日井」ブランドを進めた活性化策ですが、現在、春日井の表玄関であるJR春日井駅前等には「書のまち春日井」をイメージするものがありません。ロータリーには小野道風関連のモニュメントを設置したり、駅構内の通路に春日井市内の書道家の揮毫したものや学生たちの作品を常時展示するのはいかがでしょうか。交通の表玄関から書の香りが漂うまちにするのも必要なことだと思います。また、ご存知の方も多いかと思いますが、鳥居松商店街振興組合さんは「街角メッセージ」をテーマとして、全街路灯の支柱に子供と大人の書道作品を思い思いのメッセージにして掲示して市民に鑑賞してもらおうとする取り組みを既に行っています。文化の特色を意識した取組みで、今後の広がり期待するところであります。私からの提案としては、市内の一角に「書のまち春日井」推進地区を設置し、書の香りがする取り組みを行ってはいかがでしょうか。街路灯の支柱には心和ませる書道作品の展示が、店を見れば書家の揮毫した芸術的看板がある風景は魅力あるまちづくりに繋がるものと確信します。さらにこの地区には、現在春日井に無い書道関係の道具、材料（筆、硯、墨、書道用和紙、額）の専門店の設置や書の関連グッズ、土産品等々書道愛好者の全てのニーズを満たすものを置くのも最低限不可欠かと思えます。まちなみ全体が書の学びの場となっていることが重要で、書の専門的知識から趣味的知識に至るまで、書に関する全てが学べる、こう言ったまちなみを作っていた

だけたらと願います。最終的には「書のまち春日井」のガイドパンフレット及びマップを作成し国内外の観光客を「書のまち春日井」推進地区に呼び込んだり、書のモニュメントが等間隔に設置された道風記念館までの書文化の世界へ誘う散策路を整備し、こちらまで足を運んでいただけるよう持って行く。こうした形が最終完成形になるのではないでしょう。道風記念館近くには、十五の森の遺跡、鳥居松本通商店街は歴史ある「下街道」があります。書文化とこう言った歴史的遺構と合わせ、まちづくりを進めるのもより効果の出るものと期待します。「書のまち春日井」のスローガンは、もはや立派な市民のアイデンティティーであるといっても過言ではありません。「書のまち春日井」ブランドの推進は、必ずや春日井市の活力アップに繋がるものです。今後の取り組みをお願い申し上げ、私からの質問を終わります。以上（この内容についてはご本人の了解を得て掲載しております。）

（文責：河地 清）

## 次回

# 「ふるさと春日井学」 研究フォーラム（案内）

## 第 38 回

日 時：平成 28 年 3 月 6 日（日） 13:30～15:30

テーマ：『「ふるさと春日井」まちづくりの動き』

講師：河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

場所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容： 「ふるさと意識なくして地域の活性化なし」「意識がかわれば行動が変わる」は、本会の基本的コンセプトです。

3 年間で 37 回のフォーラムを通じてふるさと春日井の魅力・特色を下町研究者とも言うべきそれぞれの分野の専門家に講演してもらいました。変化は見えたでしょうか？活性化へのアクションはあるのでしょうか？・・・続きは FORUM で

（各回非会員の方のみ資料代 500 円徴収させていただきます。）

事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索